

倦怠感があり感染症に罹患しやすい患者に 補中益気湯が有用であった2症例

慶應義塾大学医学部漢方医学センター（東京都） 上原 萌美

日常臨床にて、免疫能が低下し感染症に罹患しやすい患者に遭遇することはしばしばある。このような状態は高齢者や基礎疾患のある者によくみられるが、これらの患者では感染症の重症化リスクも懸念されるため、感染症を予防することが大切である。風邪をひきやすい状態などを東洋医学では“気虚”といい、“気虚”を治療する代表的な漢方薬が補中益気湯である。補中益気湯は、主に倦怠感や食欲不振などの症状に使用される薬剤であり、様々な疾患を背景にした倦怠感や食欲不振の報告がされている。

今回、倦怠感があり感染症に罹患しやすい患者に補中益気湯を使用し、感染症の罹患回数が減少した2症例を経験したため報告する。

Keywords 高齢者、関節リウマチ、免疫能低下、気虚、補中益気湯

はじめに

日常臨床にて、免疫能が低下し感染症に罹患しやすい患者に遭遇することはしばしばある。このような状態は高齢者や基礎疾患のある者によくみられるが、これらの患者では感染症の重症化リスクも懸念されるため、感染症を予防することが大切である。

今回、倦怠感があり感染症に罹患しやすい患者に補中益気湯を使用し、感染症に罹患しにくくなった2症例を経験したため報告する。

症例提示

症例1 56歳 女性（図1）

【主 訴】 倦怠感、副鼻腔炎に罹患しやすい

【現病歴】 関節リウマチに対してエタネルセプトを開始後、倦怠感が続き副鼻腔炎に罹患しやすくなった。虫刺され跡が残存し、湿疹が出るなどの皮膚症状も多い。気虚と判断し、クラシエ補中益気湯エキス細粒 7.5g/日を処方した。

【経 過】 3週間後、倦怠感が改善し副鼻腔炎に罹患しにくくなった。虫刺され跡が残存し、湿疹が出るなどの皮膚症状も減少した。その後も処方を継続した。

症例2 87歳 男性（図2）

【主 訴】 倦怠感、感冒に罹患しやすい

【現病歴】 夜間頻尿があり、3ヵ月前に肺炎で入院してから、

倦怠感が続き感冒に罹患しやすくなった。腹診にて腹力はやや虚、小腹不仁を認めた。気虚・腎虚と判断し、朝夕にクラシエ補中益気湯エキス細粒 5.0g/日＋夕に牛車腎気丸 2.5g/日を処方した。

【経 過】 3週間後、調子がよい。3ヵ月後、倦怠感が改善し感冒に罹患しにくくなり、夜間頻尿の回数も減少した。現在も処方を継続している。

なお、報告した2症例に漢方薬による有害事象は認めなかった。

図1 症例1の経過

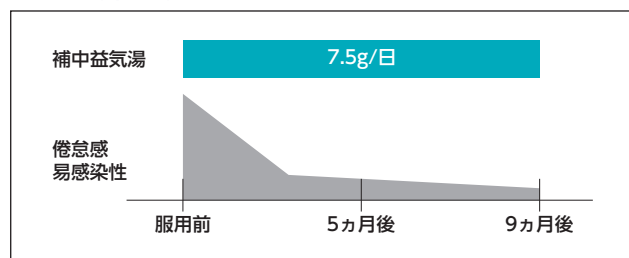
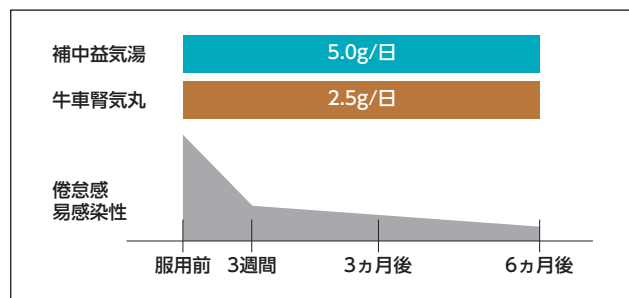


図2 症例2の経過



考 察

今回、感染症に罹患しやすい患者に補中益気湯を使用し、感染症の罹患回数が減少した2症例を経験した。

補中益気湯は、体力虚弱で倦怠感や食欲不振がある者に適する薬剤であり、気虚(生命エネルギーとしての“気”の不足)を治療する代表的な方剤である¹⁾。気虚の症状には倦怠感、食欲不振、風邪をひきやすい、などがある²⁾。

補中益気湯という名前には、中(胃腸の機能)を補い気(元気)を益す、という意味がある。構成生薬の黄耆・人参・朮・甘草・陳皮・大棗・生姜には、弱った胃腸機能を回復し元気を益す作用がある(補気健脾作用)。胃腸機能の低下は栄養状態および免疫能の低下につながるが、胃腸機能の回復により、それらの改善も期待できると考えられる。

今回経験した2症例は明らかな白血球の低下はみられなかったが、初診時に倦怠感や感染症に罹患しやすいなどの症状があり気虚と判断した。その後、補中益気湯の使用により気虚が改善し、倦怠感が軽減し感染症に罹患しにくくなったと考える。

日常臨床でも、患者が補中益気湯を内服すると感冒などの感染症に罹患しにくくなることをよく経験する。ランダム化比較試験(RCT)でも、慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者において、補中益気湯の6ヵ月間の内服による、感冒罹患回数の有意な減少が報告されている³⁾。

薬理学的にも補中益気湯の免疫機能増強作用に関する報告は複数あり、高齢者・老齢マウスにおけるNK細胞増加^{4, 5)}、マウスにおけるインフルエンザ感染時のウイルス増殖抑制や感染後早期のIFN- α の誘導⁶⁾、マウスにおける拘束ストレスによる免疫力低下(IFN- γ 産生能低下、マクロファージ活性低下)の改善⁷⁾などが報告されている。

症例1は、エタネルセプトによる免疫抑制作用により感染症に罹患しやすくなったと考えられる。本症例においては補中益気湯の使用により感染症の罹患回数は減少したため、補中益気湯は免疫抑制作用のある薬剤を使用中の患者の感染予防に臨床応用できる可能性がある。また、補中益気湯により皮膚症状も改善した。虫刺され跡が残存し、湿疹が出るなどの皮膚症状は、以前から体調不良時に起こるため、エタネルセプトによる有害事象ではなく気虚によるものと考えた。皮膚症状の改善は、補中益気湯の皮膚栄養を高める作用のある黄耆・当帰が含まれているためと考えられる。薬理学的には、補中益気湯がマウスの皮膚バリア

機能障害を改善したとの報告がある⁸⁾。補中益気湯は、アトピー性皮膚炎の治療に併用されることがある⁹⁾。RCTにおいて、アトピー性皮膚炎があり「疲れやすい」、「根気が続かない」などと回答した患者が補中益気湯を6ヵ月内服し、外用薬(ステロイドやタクロリムス)の使用量は有意に減少した¹⁰⁾。

症例2は診察所見より気虚だけでなく腎虚もあると判断し、牛車腎気丸を併用した本症例の倦怠感は気虚・腎虚の両方が原因であった可能性があり、牛車腎気丸の併用は倦怠感の改善に寄与したものではないかと考えられる。

結 語

今回、倦怠感があり感染症に罹患しやすい患者に補中益気湯を使用し、感染症に罹患しにくくなった2症例を経験した。免疫能が低下した患者の感染症罹患予防に補中益気湯は有用である可能性がある。

【参考文献】

- 1) 日本漢方医学教育協議会: 漢方医学講義. 羊土社, 2020
- 2) 寺澤 捷年: 症例から学ぶ和漢診療学第3版. 医学書院, 2012
- 3) 福地義之助 ほか: 慢性閉塞性肺疾患に対する漢方治療の有用性評価に関する研究. 厚生労働省科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業平成18年度総括研究報告書: 1-31, 2007
- 4) Kuroiwa A, et al.: Effect of a traditional Japanese herbal medicine, hochu-ekki-to (Bu-Zhong-Yi-Qi Tang), on immunity in elderly persons. *Int Immunopharmacol*. 2004 Feb; 4 (2): 317-24.
- 5) Utsuyama M, et al.: Immunological restoration and anti-tumor effect by Japanese herbal medicine in aged mice. *Mech Ageing Dev*. 2001 Mar; 122 (3): 341-52.
- 6) Mori K, et al.: Effect of Hochu-ekki-to (TJ-41), a Japanese herbal medicine, on the survival of mice infected with influenza virus. *Antiviral Res*. 1999 Dec 15; 44 (2): 103-11.
- 7) Yamaoka Y, et al.: Protective effect of a traditional Japanese medicine, Bu-zhong-yi-qi-tang (Japanese name: Hochu-ekki-to), on the restraint stress-induced susceptibility against *Listeria monocytogenes*. *Immunopharmacology*. 2000 Jun; 48 (1): 35-42.
- 8) Yanagihara S, et al.: Protective effect of hochuekkito, a Kampo prescription, against ultraviolet B irradiation-induced skin damage in hairless mice. *J Dermatol*. 2013 Mar; 40 (3): 201-6.
- 9) 公益社団法人日本皮膚科学会 ほか: アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2024
- 10) Kobayashi H, Ishii M, Furue M, et al.: Efficacy and Safety of a Traditional Herbal Medicine, Hochu-ekki-to in the Long-term Management of Kikyo (Delicate Constitution) Patients with Atopic Dermatitis: A 6-month, Multicenter, Double-blind, Randomized, Placebo-controlled Study. *Evid Based Complement Alternat Med*. 2010; 7, 367-373